

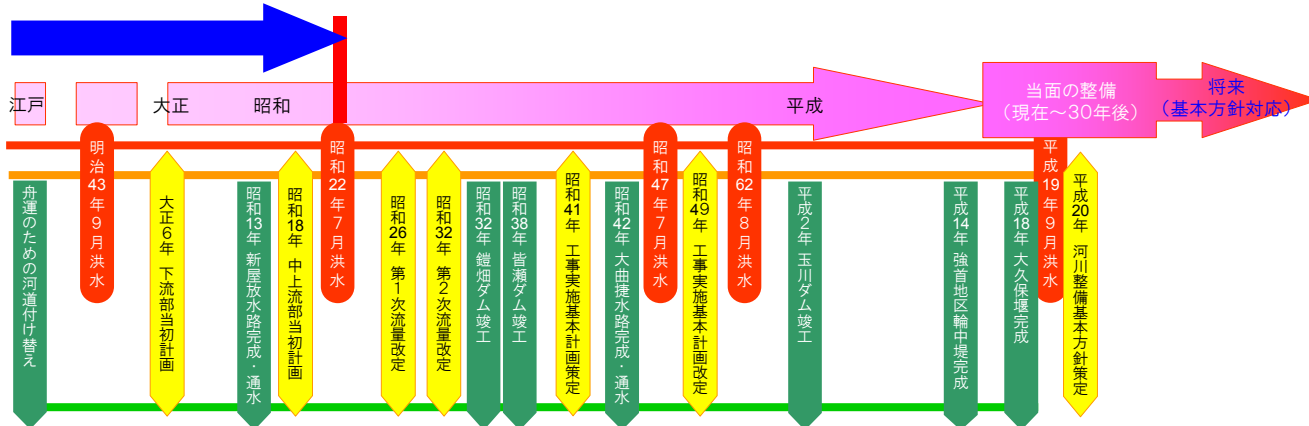
# 第2回雄物川水系河川整備学識者懇談会 議事概要の補足事項

第2回懇談会「I.治水の現状と課題」に関する補足事項  
主要な洪水と治水対策

平成20年7月17日  
国土交通省 東北地方整備局

# 第2回懇談会「I.治水の現状と課題」に関する補足事項 主要な洪水と治水対策①

## 最大洪水昭和22年7月洪水



### 江戸時代の改修

- ・舟運の便を図り、度重なる洪水被害から領地を守るため、隘路となっていた箇所において河道付替えを実施
- ・玉川合流点下流の河道付替え
- ・雄物川本川と支川玉川が合流する神宮寺地点では、度重なる洪水被害を受けていた
- ・当時としては大規模な治水対策として天明2年(1782)延べ3万6千人余人を動員し、2ヶ月で川を付け替えた

寛政10年(1798)神宮寺村付近絵図

### 大正時代の改修など

- ・明治43年9月洪水を契機に、河口～椿川地点を大正6年に直轄編入
- ・秋田市及び付近平野の水害を除去し、河口に位置する秋田港(旧名:土崎港)の安定を図ることを目的とし、河口において放水路等を整備
- ・明治、大正期の度重なる洪水被害から秋田市街地を守り、河口に位置する秋田港(旧名:土崎港)の安定化等を目的とし、椿川地点下流を直轄化し、河口より約10km 上流地点(新屋)で旧川を締め切り、日本海に直接流下させる延長約2kmの放水路事業に着手(大正6年)、22年間の歳月をかけて、昭和13年に完成
- ・この事業により、浸水被害が解消され、秋田港を中心とする臨海型の工業地帯が発展

爆破通水の瞬間

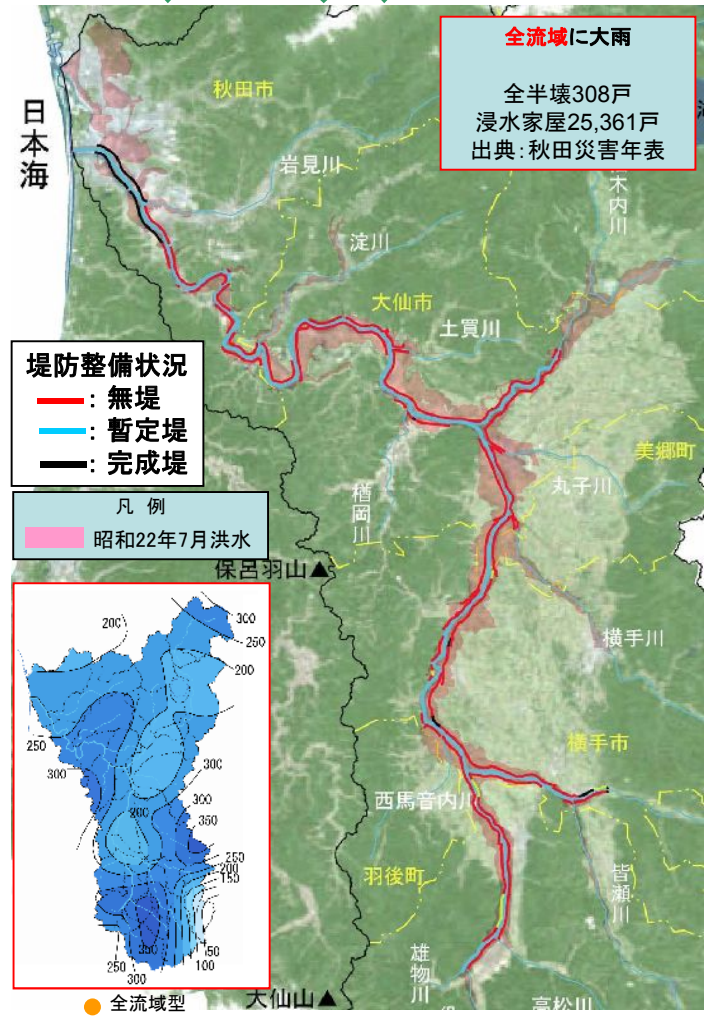
### 昭和初期の改修など

- ・昭和22年7月洪水等を契機に、玉川合流点～皆瀬川合流点及び皆瀬川等を昭和18・26年に直轄編入

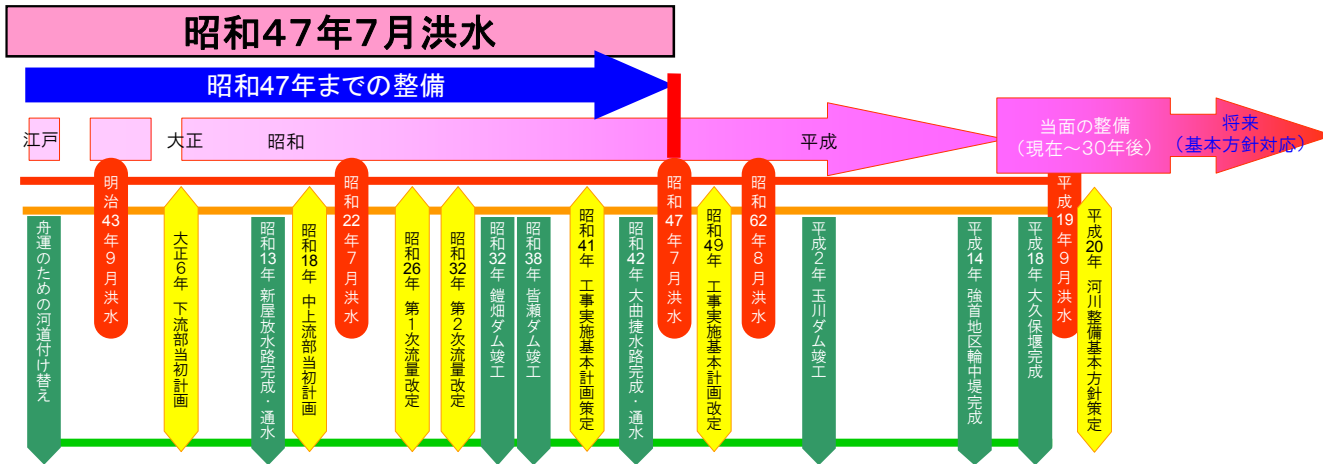
### これまでの改修による効果等

- ・雄物川放水路の完成により、秋田市街地における雄物川の氾濫は減少
- ・河川整備の初期段階であり、椿川より下流の築堤整備のみであり、堤防整備率は6%程度である。
- ・ほとんど、河川整備は行われていない。

※堤防整備率(%) = 完成堤 / 堤防必要区間



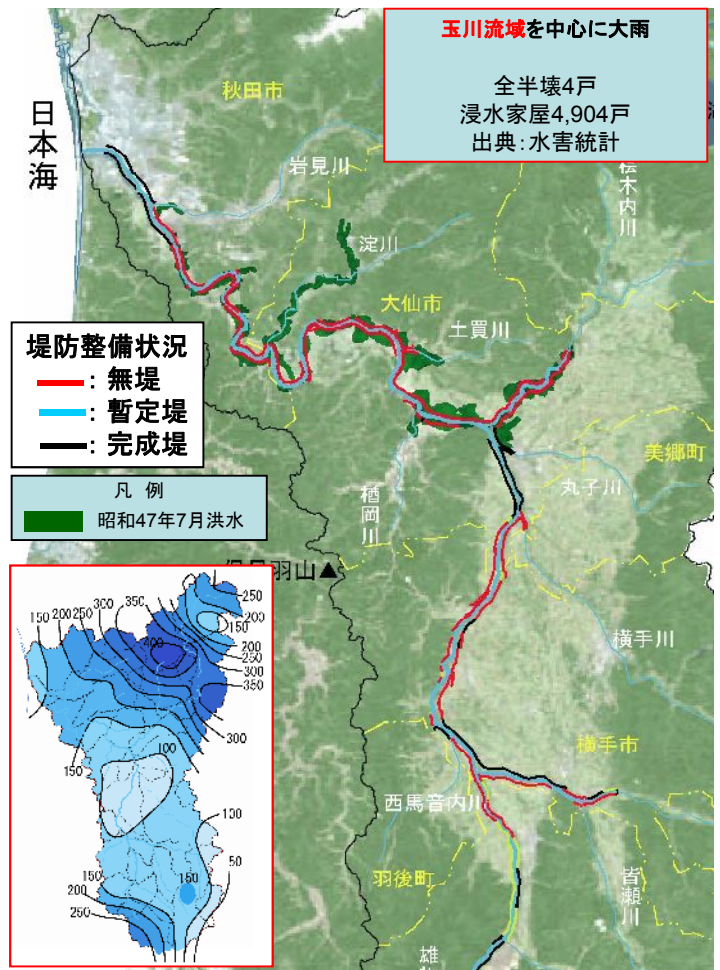
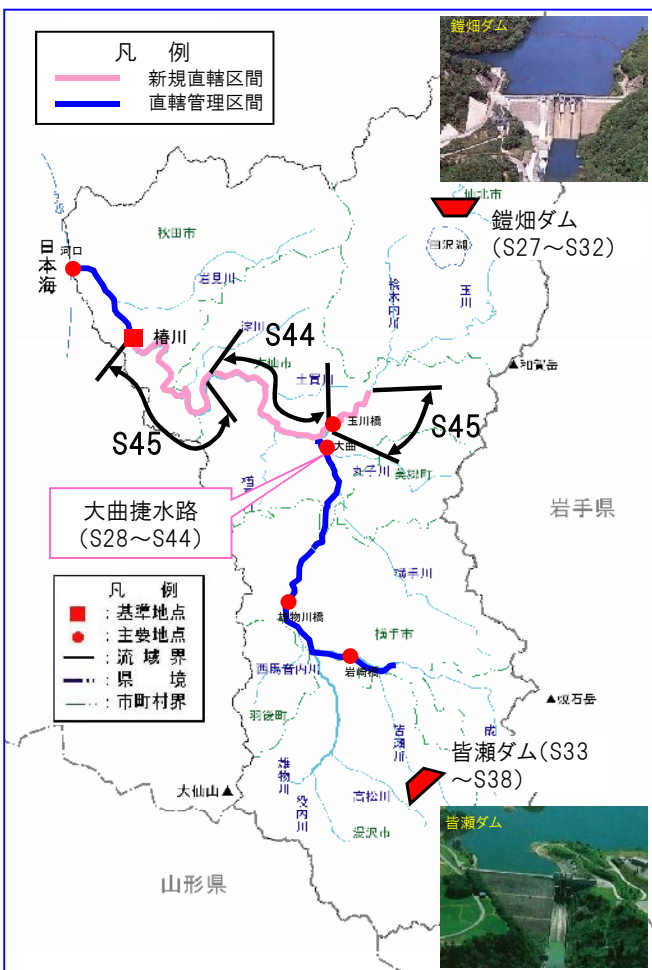
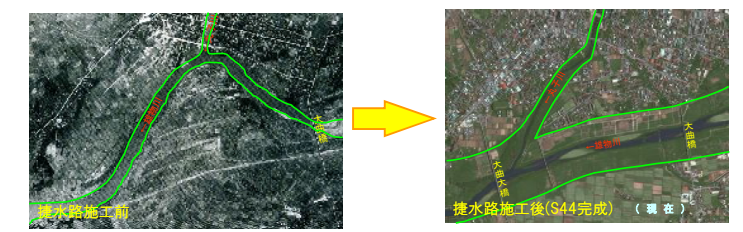
# 第2回懇談会「I.治水の現状と課題」に関する補足事項 主要な洪水と治水対策②



## 昭和中期の改修等

・水系一貫の治水対策を目指し、S44~S45に玉川下流及び玉川を直轄編入  
 ・皆瀬川及び本川では救農土木としての河川改修が開始され、河道疎通能力を向上させる一方、鎧畑ダム・皆瀬ダムによる洪水制御により、水系一貫の治水対策事業を実施

・昭和22年洪水を契機に蛇行が著しく洪水被害が頻発していた大曲地区など中流部を直轄編入し、昭和28年捷水路事業に着手、16年の歳月をかけて昭和44年に完成  
 ・水路の完成により、浸水被害が減少し、市街地が約4倍(163ha→616ha)に広がり、地域の発展に大きく貢献した。

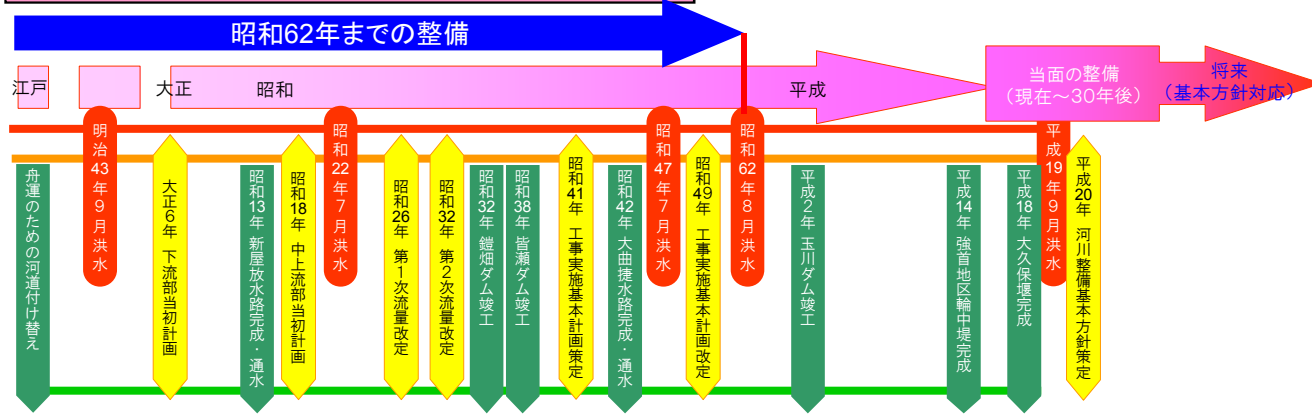


## これまでの改修による効果等

・大曲捷水路整備により、洪水被害の常襲地帯であった大曲市街地の被害が減少。  
 ・S22.7洪水以降、堤防整備率は約6%から約25%となり、堤防整備・河道整正等により大仙市等の市街地の河道疎通能力が向上。  
 ・上流2ダム（鎧畑ダム、皆瀬ダム）の完成により、河道負担が軽減。  
 ・しかし、河川整備はまだ発展途上であり、玉川流域中心の大雨により、玉川合流点より下流の雄物川や玉川では洪水被害に見舞われる。

※堤防整備率(%) = 完成堤 / 堤防必要区間

昭和62年8月洪水



昭和後期の改修等

・湯沢市街地が位置する皆瀬川合流点上流を昭和54年に直轄編入

・雄物川の玉川合流点より上流部の堤防整備の進捗を図り、合わせて、玉川筋及び本川中下流部の治水安全度向上のため、昭和50年より玉川筋に玉川ダムの建設を実施



玉川ダム(H2年完成)



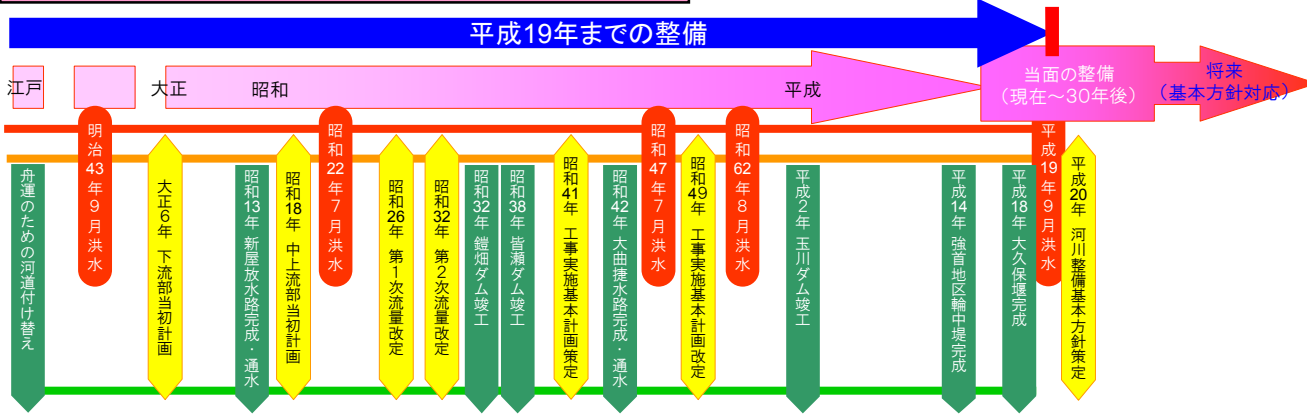
これまでの改修による効果等

- ・ S47.7洪水以降、堤防整備率は約25%から約38%となり、堤防整備・河道整正等により河道の疎通能力が向上。
- ・ しかし、河道の整備は未だ発展途上のため、中流部から上流部に至るまで洪水被害に見舞われる。

※堤防整備率(%) = 完成堤 / 堤防必要区間

# 第2回懇談会「I.治水の現状と課題」に関する補足事項 主要な洪水と治水対策④

## 平成19年9月洪水



## 平成の改修等

- ・昭和62年8月洪水を契機に、早期治水効果発現を目指して輪中堤整備や堰等の改築を実施する一方、玉川ダム・成瀬ダムを整備
- ・玉川筋及び本川中下流部の治水安全度向上のため玉川筋に玉川ダムを整備
- ・河川改修では整備着手が遅れた玉川合流点下流では、無堤部が多く、治水効果の早期発現のため輪中堤による地先防御を実施
- ・上流部では洪水の流下阻害となる取水堰を改築



- ・上流部の流下能力阻害となる構造の堰(頭首工)を改築して治水安全度向上を目指した整備



## これまでの改修による効果等

- ・S62.8洪水以降、堤防整備率は約38%から約56%となり、堤防整備・河道整正等により河道の疎通能力が向上。いまだ無堤地区が多い。
- ・3ダム(鎧畑ダム、皆瀬ダム、玉川ダム)の完成により河道の負担を軽減。
- ・成瀬ダム事業着手。完成後、さらに、河道の負担を軽減。

※堤防整備率(%) = 完成堤 / 堤防必要区間

